

☆ みんなの前で叱る の巻 ☆

みんなの前で叱る事。これは先生方には常識なのですが（皮肉ではありません）、子どもを叱るときは、「一対一の場」を設けずからにしましょう。大勢の前で叱るのはパワハラに当たります。子どもを公共の場、例えばスーパーやファミレスで叱るのはやめましょう。

子どもにもプライドがあり、みんなの前で恥をさらされると心に傷を負ってしまうことがあるからです。前にも述べたように、感情的な叱り方は逆効果です。「こういう理由があるから、やめようの方が良いよ」「こうやるとマイナスだから、こうしてはどうかナ」など、なぜ良くないのか、分かるように声掛けしてください。

普段から一対一で話す場を作り、お互いが考えていることを話せるようにしておくと思います。叱るより、意見交換をするのだという意識を持っていると、落ち着いて話ができるはず。 | ここまでは“飯山暁朗著・こどものメンタルは4タイプ”の紹介文に、こどもの叱り方について書かれてありましたので、一部をまとめたものを転載させていただきました。 |

## ☆

先生方がみんなの前で叱らない（ように努力している）のは、そうしてしまうと、先生がいない所では先生に代わってみんなが、その子を悪く言うお墨付きを与える事になりかねないからです。

同様に、もしもあなたが、他のきょうだいの前で「ホント！ダメな子!!」みたいに言い捨てるしかり方をしていると、とくに年下のきょうだいからその子は“ダメな子”と思われかねないからです。

私の経験ですが、教室で、みんなの前で叱られると、先生のお叱りは頭の上を通り過ぎて行くのです。うつむいて、後ろや横をチラリとのぞいて、みんなが自分を笑っていないか、そればかりが気にしていました。

## ☆☆

同じ失敗をしがちな子は、失敗しても気持ちの切り替えが早く、長く引きずりません。悪く言うと同じ過ちを繰り返すことが多いタイプなのです。“先生の気が済んだら、すべまご破算”、だと思ふから。（私はさらに、笑った友だちをしっかりと覚えておくタイプでした。もちろん、ただでは済ませません）



この時に大事なものは、「どうして失敗したか」一緒に考えてあげる事です。考えるのが難しい子には、「どうしたかったのか」を尋ね、「それならこうしたら良いよ」など、もっと良いやりかたを教えあげるので。それは、聞いている他の子の参考にもなります。

成功するまで続けたらそれは、失敗ではなく、練習